



SLM Solutions Group AGの買収について

金属アディティブマニュファクチャリング業界におけるリーディング・プレイヤーを目指す

2022年9月2日

株式会社 **ニコン**

- 社長の馬立です。本日は突然のお声かけにも関わらず、ご参加いただきありがとうございます。
- 本日は、当社の戦略投資案件について、マスコミおよび投資家・アナリストの皆さまにご報告申し上げます。

目次

エグゼクティブ・サマリー

1. 当社の事業戦略
2. 本買収の概要
3. SLM社の概要
4. 本買収の意義
5. 取引概要

- 本日のアジェンダです。まず、私から本件の概要と中計戦略との関係についてお話した後、社長室長の大村常務から買収先の概要、本件の狙いおよび取引の概要について、ご説明申し上げます。



取引概要

- 当社は金属アディティブマニュファクチャリング（「AM」）装置の開発・製造における世界有数の専門会社であるドイツのSLM Solutions Group AG（「SLM社」）と本買収に関する投資契約を締結、全株式取得に向け公開買付けを実施することを決定、本買収に要する資金の総額は6億2200万ユーロ⁽¹⁾（840億円）⁽²⁾の見込
 - 2022年9月にSLM社から発行済株式数の約10%にあたる645MMの増資を引受け
 - 1株当たり€20.00に相当する価格でSLM社の普通株式及び転換社債（但し、買付価格が転換価額を上回る転換社債に限る）に対する公開買付けを開始予定（「本公開買付け」）
 - SLM社の株式及び転換社債を保有するElliott International, L.P.、ENA Investment Capital LLP及びSLM社創業者のHans-Joachim Ihdeと、本公開買付けへの応募につき、取消不能契約を締結
- SLM社のスーパーバイザリー・ボード及びマネジメント・ボードは、本件に対して賛意を表明
- 関係当局からの承認等を経て、本公開買付けは2023年1～6月に完了を想定（本公開買付けにおいて下限応募株式数は設定無し）

SLM社の概要

- SLM社はマルチレーザー技術を活用した高生産性・大型部品向け産業用金属3Dプリンターの開発・製造における世界有数の専門会社
- 宇宙航空、自動車分野等において、世界150以上の有力企業等に対して750台以上のLaser Powder Bed Fusion（L-PBF）方式の金属3Dプリンターを納入

本買収の意義

- 当社は、本買収を通じて、世界中の顧客に革新的なものづくりのソリューションを提供し、金属AMの分野における世界的リーディング・プレイヤーを目指す。また、デジタルマニュファクチャリング事業を戦略事業と位置付ける現行中期経営計画の一層の推進を目指す
- 本買収を通じて、当社は以下の実現を目指す
 - 成長が期待される金属AM領域で、ブランド力と市場シェアを獲得
 - 金属AM業界の主流であるL-PBF方式の製造・販売プラットフォームの獲得
 - SLM社のワールドワイドで多岐にわたる顧客や多様なアプリケーションの獲得
 - AM領域において経験豊富なSLM社のマネジメントと優秀なエンジニア、セールス人材の獲得

注記 (1)、100%買収を前提とした完全希薄化後株式に基づいて算出。完全希薄化後株式は、発行済株式数に、増資により発行予定の株式数及びSLM社が発行している転換社債（但し、本公開買付けの買付価格が転換価額を上回る転換社債に限り）が全て普通株式に転換されると仮定した場合の増加株式数を加味して算出

注記 (2)、€1あたり135.00円で換算

- まず、本件の概要ですが、ニコンは、一般に「金属3Dプリンター」と呼ばれる金属を積層造形するアディティブマニュファクチャリング製造装置の世界有数の専門会社の1社であるドイツのSLM社を、総額6億2,200万ユーロ、約840億円で買収したいと考えています。
- 同社はフランクフルト証券市場の上場企業であり、ニコンは、SLM社の既存株主の皆さまに株式公開買付けのご提案を一株20ユーロでさせていただく予定です。
- すでに、同社株式を保有するエリオット・インターナショナル様を含む大株主3者から公開買付けに応じる旨のコミットメントを頂戴済みです。
- また、SLM社のスーパーバイザリー・ボード及びマネジメント・ボードからもニコンの買収提案に賛同する旨の見解を頂戴しています。
- SLM社は、レーザーパウダーベッドフュージョンと呼ばれる方式の金属3Dプリンターを、航空宇宙や自動車産業など世界150以上の顧客に対し、750台以上納入している企業です。
- 今回の買収により、ニコンは革新的な生産技術であるアディティブマニュファクチャリング業界における世界的リーダーになることを目指します。

1. 当社の事業戦略 - 2030のありたい姿実現に向けたステップ

2022 - 2025

顧客伴走フェーズ

お客様の欲しいモノやコトの「本質」を理解し、顧客のイノベーション創出を支援

2025 -

顧客牽引フェーズ

未来起点でお客様の課題を先読みし多様なソリューションでイノベーション創出を牽引

2022

2025
ありたい姿

お客様の欲しいモノやコトを
お客様にとって最適な方法で実現
- ソリューション提供の強化 -

2030
ありたい姿
人と機械が共創する
社会の中心企業

企業理念

信頼と創造

経営ビジョン

Unlock the future
with the power of light

3

- それでは、今回の戦略的M&A案件の背景について、ご説明します。
- これ以降ご説明する4枚のスライドは、今年4月に公表した中期経営計画からの抜粋です。
- ニコンでは、2025年までの中期経営計画を2030年のありたい姿からバックキャストして策定しました。
- 2030年の社会において、ニコンは「人と機械が共創する社会の中心企業になりたい」と考えています。
- すなわち、ニコンは、お客さまのイノベーション創出に寄り添うソリューションを提供し、人と機械がよりシームレスに共創していく世界で人間の可能性を拡げ、豊かでサステナブルな社会の実現に貢献していきたい、と考えています。

1. 当社の事業戦略 - 中期経営計画の全体像

2025年のありたい姿

お客様の欲しいモノやコトをお客様にとって最適な方法で実現

全社方針

ソリューション提供の強化により、事業安定化と収益拡大を実現、
継続的に社会的・経済的価値を創出

「主要事業」安定化

映像

精機

顧客接点と提供価値を拡大し
安定収益を確保

「戦略事業」収益拡大

ヘルスケア

コンポーネント

デジタルマニファクチャリング

有望市場・差異化領域で
顧客と新たな価値を創造

2025年度 数値目標

売上収益 7,000億円

営業利益率 10%以上

ROE 8%以上

経営基盤

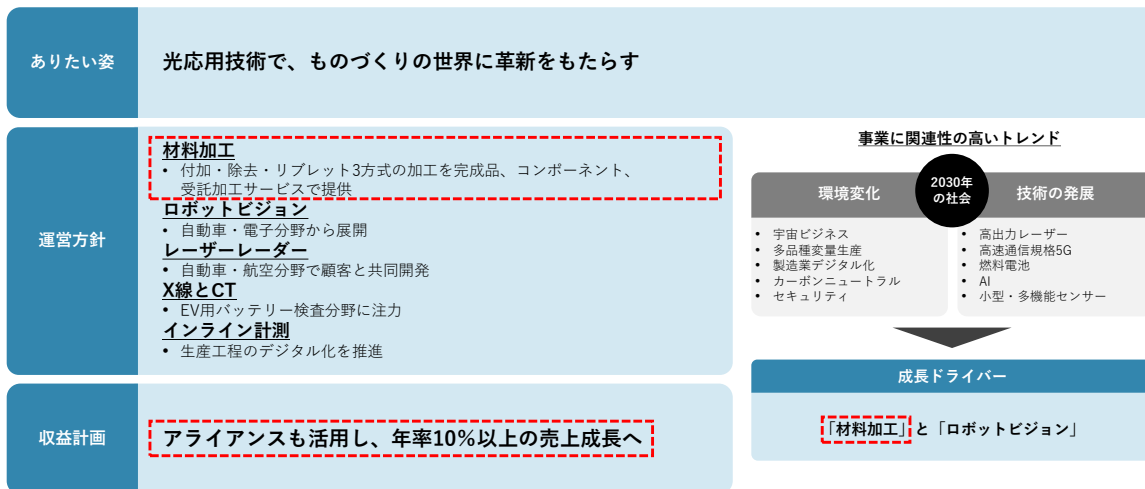
サステナビリティ戦略、人的資本経営、顧客・従業員重視のDXを推進
技術・ものづくりという共通価値基盤でシナジー創出
コーポレートガバナンスの向上による透明性の高い経営

4

- こうした2030年のありたい姿に向けて、前半戦の2025年までの中期経営計画では、ソリューション提供の強化により、事業の安定化と収益拡大を目指していく方針です。
- 具体的には、主要事業である「映像」「精機」の2事業において安定収益の確保を図るとともに、「デジタルマニファクチャリング」など戦略3事業においては、市場成長が見込まれる市場で新たな価値創造を目指していくことを、4月におこなった中計の説明会で皆さまにご説明しました。
- 今回の戦略的M&Aは、まさに、金属3Dプリンティングという有望市場で新たな価値創造を目指すための買収案件です。

1. 当社の事業戦略

– デジタルマニュファクチャリング事業戦略 (1/2)



注記 (1)、「材料加工」と「ロボットビジョン」は報告セグメント「コンポーネント」事業、その他のビジネスは報告セグメント「産業機器・その他」に属する

- 中期経営計画では、デジタルマニュファクチャリング事業のありたい姿として、「光応用技術でものづくりの世界に革新をもたらす」というビジョンを掲げました。
- 右にありますように、2030年に向けて、宇宙ビジネス拡大、製造業のデジタル化、カーボンニュートラルなどの変化が予想されます。また、高出力レーザーなどの技術革新も想定されます。
- そうしたなか、ニコンは中計において、資料一番下に記載のとおり、「アライアンスも活用し年率10%以上の売上の成長を目指す」と宣言しました。
- 今回の案件は、この方針に基づき、材料加工の領域で戦略的M&Aを行うものです。

1. 当社の事業戦略

– デジタルマニュファクチャリング事業戦略 (2/2)



独自の提供価値を組み合わせ、新たな市場を形成

社会・産業ニーズ

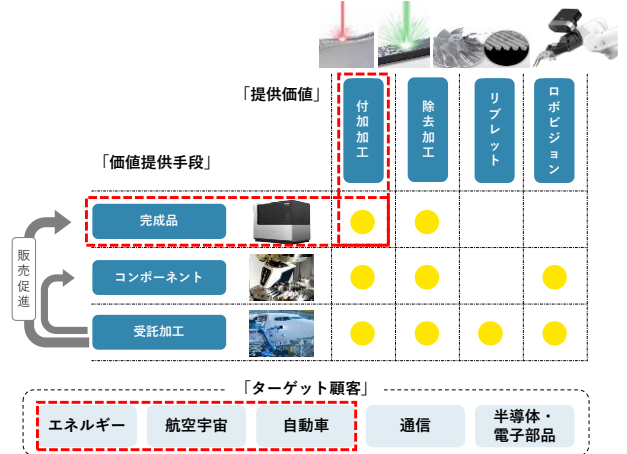
- 難削・複雑形状の高精度加工
- 燃費改善、発電効率向上
- 物体高速検知、ピック&プレイス高度化・効率化

当社の強み

- 高精度計測・Feedback加工・3Dアラインメント、高速センシングなどの要素技術
- 高度なシステムインテグレーション能力

ビジネス展開

- 有望なアプリケーションを顧客と共同開発
- 付加/除去/リブレット加工・ロボットビジョンをソリューションとして提供



- 中計において、「成長ドライバー」と位置付けた材料加工においては、2030年に向けて、宇宙産業などにおいて複雑な形の高精度加工が求められるようになり、自動車産業では電気自動車をはじめ軽量化が大きなテーマとなっています。
- こうした課題に対して、ニコンは、資料右上にある付加加工・リブレット加工などの価値を、完成品・コンポーネント・受託加工サービスなどの形で提供していくことを計画しています。
- 今回の戦略的M&A案件は、このうち、赤い点線で囲った、航空宇宙やエネルギー産業、自動車産業のお客さま向けに、光を用いた3Dプリンティング、すなわち付加加工という新たな価値を提供するための買収です。
- 今回のディールは、「ものづくりの世界に革新をもたらす」というニコンのビジョンを実現するための大きな、そして重要なステップだと考えています。
- ニコンは、中期経営計画に基づき、今後もオーガニック、ノンオーガニックの両面で、着実な成長を目指してまいります。
- デジタルカメラを中心とする映像事業と、FPD/半導体露光装置を中心とする精機事業の主要2事業でしっかりと収益を確保し、さらにデジタルマニュファクチャリング事業など戦略3事業で利益を伸ばすことによって、2025年度には売上7,000億円、営業利益率10%以上、ROE8%以上を目指してまいります。
- 引き続き、マスコミ・投資家をはじめ関係各位のご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。



取引概要

- ・ 当社は金属アディティブマニュファクチャリング（「AM」）装置の開発・製造における世界有数の専門会社であるドイツのSLM Solutions Group AG（「SLM社」）と本買収に関する投資契約を締結、全株式取得に向け公開買付けを実施することを決定、本買収に要する資金の総額は€622MM⁽¹⁾（840億円）⁽²⁾の見込
 - 2022年9月にSLM社から発行済株式数の約10%にあたる€45MMの増資を引受け
 - 1株あたり€20.00に相当する価格でSLM社の普通株式及び転換社債（但し、買付価格が転換価額を上回る転換社債に限る）に対する公開買付けを開始予定（「本公開買付け」）
 - SLM社の株式及び転換社債を保有するElliott International, L.P.、ENA Investment Capital LLP及びSLM社創業者のHans-Joachim Ihdeと、本公開買付けへの応募につき、取消不能契約を締結
- ・ SLM社のスーパーバイザー・ボード及びマネジメント・ボードは、本件に対して賛意を表明
- ・ 関係当局からの承認等を経て、本公開買付けは2023年1～6月に完了を想定（本公開買付けにおいて下限応募株式数は設定無し）

SLM社の概要

- ・ SLM社はマルチレーザー技術を活用した高生産性・大型部品向け産業用金属3Dプリンターの開発・製造における世界有数の専門会社
- ・ 宇宙航空、自動車分野等において、世界150以上の有力企業等に対して750台以上のLaser Powder Bed Fusion（L-PBF）方式の金属3Dプリンターを納入

本買収の意義

- ・ 当社は、本買収を通じて、世界中の顧客に革新的なものづくりのソリューションを提供し、金属AMの分野における世界的リーディング・プレイヤーを目指す。また、デジタルマニュファクチャリング事業を戦略事業と位置付ける現行中期経営計画の一層の推進を目指す
- ・ 本買収を通じて、当社は以下の実現を目指す
 - 成長が期待される金属AM領域で、ブランド力と市場シェアを獲得
 - 金属AM業界の主流であるL-PBF方式の製造・販売プラットフォームの獲得
 - SLM社のワールドワイドで多岐にわたる顧客や多様なアプリケーションの獲得
 - AM領域において経験豊富なSLM社のマネジメントと優秀なエンジニア、セールス人材の獲得

注記 (1)、100%買収を前提とした完全希薄化後株式に基づいて算出。完全希薄化後株式は、発行済株式数に、増資により発行予定の株式数及びSLM社が発行している転換社債（但し、本公開買付けの買付価格が転換価額を上回る転換社債に限る）が全て普通株式に転換されたとき仮定した場合の増加株式数を加味して算出

注記 (2)、€1あたり135.00円で換算

- 続いて、私、大村より、ご説明申し上げます。このスライドは、冒頭の案件概要の再掲です。
- 上段の「取引概要」について、補足的にご説明します。
- 社長の馬立からお話したように、今回の戦略的M&A案件の総額は6億2,200万ユーロですが、これは3つの部分に分かれます。
 - まず、本年9月にニコンはSLM社に対して4,500万ユーロの増資の引受けを行います。
 - さらに、SLM社の普通株式について1株あたり20ユーロで公開株式買付けを行います。
 - また、買付価格が転換価額を上回っている転換社債についても、公開買付けを行います。
- この公開買付け提案に対して、エリオット・インターナショナル様ら大株主3者が、それぞれが保有される株式及び転換社債を取消不能契約に基づいて応募されることで合意頂いています。
- この大株主3者による応募および増資引き受けにより、ニコンはSLM社の完全希薄化後株式の61.1%を確保することになる見込みです。
- 公開買付けの成立時期は、関係当局のご承認のタイミング次第ですが、来年の1月から6月の間を想定しています。

3. SLM社の概要 - サマリー



概要

設立年	1996年
本社	ドイツ・リュウベック市
上場市場	フランクフルト証券取引所 (Ticker: AM3D)
CEO	Sam O'Leary
従業員数	500人以上 (2022年6月時点)

主力製品

NXG XII 600 - 高生産性モデル



標準的なシングルレーザー対比の生産能力

20倍

12基のレーザー搭載

各**1,000ワット**

最大造形スピード

1,000 cm³/h

注記 (1). Last Twelve Months (最近12ヵ月) の財務数値 (未監査)

主要な指標

750台以上 3Dプリンター 納入実績	€85百万 売上高 (22/6 2Q LTM ⁽¹⁾)	38% 対前年売上成長率 (22/6 2Q LTM ⁽¹⁾)	39% 売上総利益率 (22/6 2Q LTM ⁽¹⁾)
No.1 世界最速の L-PBF装置	100% 金属AMIに 注力	40%以上 従業員全体に占める エンジニアの割合	30カ国以上 従業員の 出身国の数

主要顧客

納入実績

150社以上

Fortune 500企業や
各業界における
リーディング・プレイヤー

	Porsche	BMW	Volkswagen	HONDA
	KLS Martin Group	RMIT University	Swiss m4m Center	BONE 3D
	EMERSON	SIEMENS	Baker Hughes	
	NASA	Blue Origin	Rocket Factory Augsburg	Collins Aerospace
	AIRBUS	BOEING	SAFRAN	Rolls Royce

- 次に、買取提案を行う会社、SLM社についてご説明します。
- 1996年創業のドイツ北部、リュウベックに本社を置く上場企業で、従業員は500名あまりのアディティブマニファクチャリング装置の専門メーカーです。
- 同社の最新鋭機NXGは、業界最多の12本のレーザーを持ち、高速に大型パーツの造形が可能で、業界のゲームチェンジャーになりうると期待されている装置です。
- 右上にあるように、売上など業容は拡大基調にあり、右下記載の、フォーチュン500企業を含む自動車、医療、電機、宇宙、航空産業150以上の顧客に納入実績があります。

3. SLM社の概要

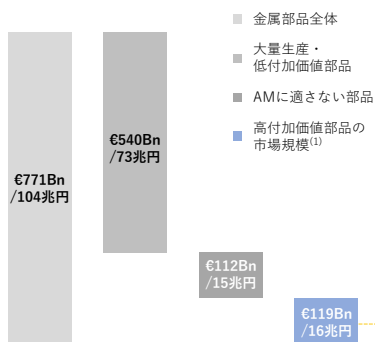
– アディティブマニュファクチャリング市場の拡大とその理由



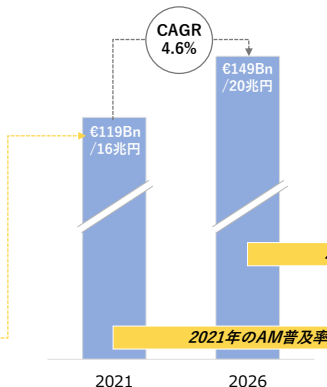
AMのメリット ・市場の見通し

- ・ AMの活用により開発期間・コストの削減や特殊造形への対応、大幅な軽量化が可能に
- ・ AMの普及率向上により、金属AM市場は中長期的な成長期へ

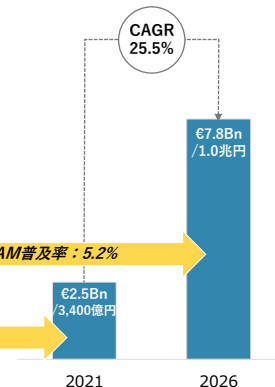
金属部品市場全体と 高付加価値部品市場の市場規模⁽¹⁾ (2021)



高付加価値部品市場の成長⁽¹⁾⁽²⁾ (2021-2026)



金属AM市場⁽¹⁾⁽³⁾ (2021-2026)



出所: AM POWER

注記 (1): €1あたり135.00円で換算
注記 (2): 理論的にAMが置換可能な市場規模の合計
注記 (3): 装置、部品製造や原材料を含む市場規模

- アディティブマニュファクチャリングは、従来の鋳造や鍛造といった加工法と比べ、開発期間が短い、コストが削減できる、特殊な造形が可能となる、また、大幅な軽量化が実現できる、といったメリットがあります。
- 現在、全世界における金属加工の市場規模は104兆円とされています。このうち、全体の15%にあたる16兆円はアディティブマニュファクチャリングが得意とする高付加価値領域であり、徐々に従来の鋳造・鍛造・金型加工からアディティブマニュファクチャリングに移行していくものと考えられます。
- 2021年時点ではこの16兆円のうち2.1%にあたる 3,400億円が実際にアディティブマニュファクチャリングで作られています。
- 4年後の2026年には、金属加工市場全体の拡大とともにアディティブマニュファクチャリングの普及率が5.2%に上昇することから、市場規模は 1兆円になるものと言われています。

3. SLM社の概要 - ポジショニングとテクノロジー

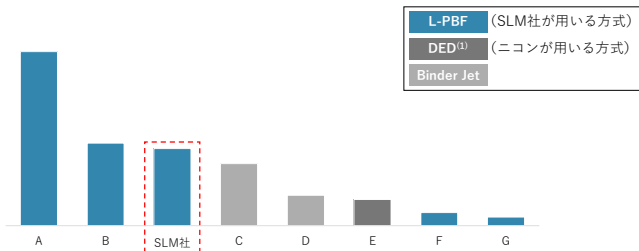


ポジショニング ・テクノロジー

- ・ L-PBF方式を用いた金属3Dプリンターの開発・製造における世界有数の専門会社
- ・ L-PBF方式は金属AM市場全体の80%以上を占め、市場を成長を牽引

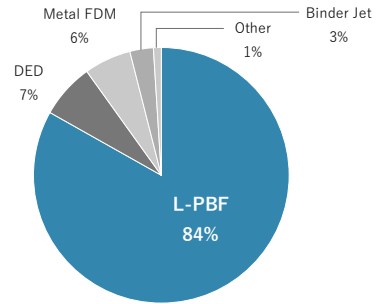
金属AM企業の売上高

当社調べ



2021年の方式別納入実績 (台数ベース) (2)

出所: AM POWER



注記 (1). Directed Energy Deposition (指向性エネルギー堆積法)
注記 (2). 金属3Dプリンター方式についての詳細はP.18を参照

- この市場を巡っては、米国やドイツ企業を中心に多くのプレイヤーが参入していますが、SLM社は世界有数の専門メーカーです。
- アディティブマニュファクチャリングには、いくつかの方式がありますが、右のグラフのとおり、SLM社が採用しているL-PBF、レーザーパウダーベッドフュージョン方式、すなわち、ベッド状に金属の粉を敷き詰めそこにレーザー光を当てることで造形していく方式が主流です。
- なお、ニコンはDED、ディレクトッドエナジーデポジションという別の方式に基づく光加工機を製造販売しています。

3. SLM社の概要 - 主力製品: NXG XII 600



主力製品

・ NXG XII 600は、12基のレーザーを搭載する高生産性モデル

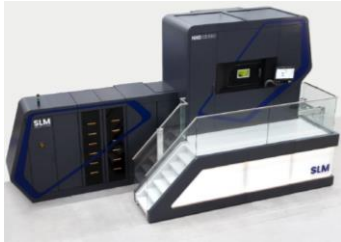
NXG XII 600 - 高生産性モデル

標準的なシングル
レーザー対比の
生産能力
20倍

SLM社の
4基レーザー製品
対比の生産能力
5倍

12基のレーザー搭載
各1,000 ワット

ズーム機能
**最大造形スピード
1,000 cm³/h**



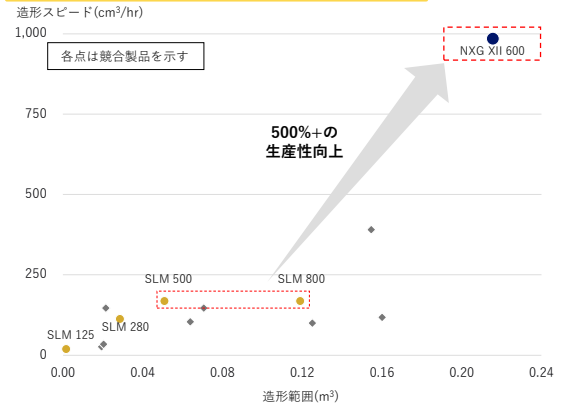
高生産性
モデル

大量生産
及び大型部品の製造に
最適化

幅広い積層
ピッチに対応

微細な造形や
精巧な造形に対応

ゲームチェンジャーとしてのNXG XII 600



出所: SLM社投資家向け資料

- SLM社は製品をすでに750台以上納入していますが、最新鋭の装置NXGはその性能において、他社の機種を圧倒していると言われており、同社の成長のけん引役になることが期待されています。
- すでに今年度2台が引き渡し済みで、受注も順調に積みあがっています。

4. 本買収の意義 - 戦略的意義と主要な事業シナジー



本買収を通じて、世界中の顧客に革新的なものづくりのソリューションを提供し、
金属AMの分野における世界的リーディング・プレイヤーを目指す

戦略的意義

- 成長が期待される金属AM領域で、ブランド力と市場シェアを獲得
- 金属AM業界の主流であるL-PBF方式の製造・販売プラットフォームの獲得
- SLM社のワールドワイドで多岐にわたる顧客や多様なアプリケーションの獲得
- AM領域において経験豊富なSLM社のマネジメントと優秀なエンジニア、セールス人材の獲得

主要な 事業シナジー

- 共同開発を通じて製品開発及び製品ロードマップの推進加速
- 当社の最先端技術や製造関連の知見を提供
- 研究開発における協働及びDED方式とL-PBF方式の組み合わせにより、新たな革新的ソリューションを提供

12

- 次に、この戦略的M&Aの狙い、意義等についてご説明します。
- 社長の馬立からもお話したとおり、ニコンは、SLM社の買収により、世界中のお客さまに革新的なものづくりのソリューションを提供し、金属アディティブマニュファクチャリングの分野で世界のリーディング・プレイヤーになりたい、と考えています。
- 今回の買収が実現すれば、ニコンは、成長が期待される金属3Dプリンター加工領域で、ブランド力と市場シェアを獲得することができます。
- また、SLM社のワールドワイドで多岐にわたる顧客や多様なアプリケーションを獲得できることも魅力です。
- さらに、SLM社が持っている、アディティブマニュファクチャリングに長年の経験があるマネジメントと優秀な技術・フィールドエンジニア、セールス・アフターセールス人材を獲得できるという大きなメリットもあります。
- ビジネス上のシナジー効果としては、共同開発により製品ロードマップ整備のスピードを加速することができることに加え、ニコンが採用しているDED方式とSLM社のL-PBF方式、レーザーパウダーヘッドフュージョン方式という2種類の技術を活かした新たな展開などが期待できます。

5. 取引概要(1/2)



買収対価	<ul style="list-style-type: none"> • SLM社株式の100%（完全希薄化後ベース）を1株当たり€20.00で現金対価により取得 <ul style="list-style-type: none"> - 完全希薄化後ベースの株式価値は€622MM (840億円)⁽¹⁾ • SLM社株式の61.1%（完全希薄化後ベース）の取得を既に確保 <ul style="list-style-type: none"> - 当社はSLM社から発行済株式数の約10%（完全希薄化後ベースで7.3%）にあたる€45MM (61億円)⁽¹⁾を増資により引受け - SLM社の株式及び転換社債を保有するElliott International, L.P.、ENA Investment Capital LLP及びSLM社創業者のHans-Joachim Ihdeと、本公開買付けへの応募につき、取消不能契約を締結
本買収への賛同	<ul style="list-style-type: none"> • 当社と SLM社は本買収に関する主要な条件について合意した投資契約を締結済み • SLM社のスーパーバイザー・ボード及びマネジメント・ボードは、本件に対して賛意を表明
主な条件と ストラクチャー	<ul style="list-style-type: none"> • 本公開買付けにおいて下限応募株式数の設定は無し • 関係当局からの承認及びその他手続上の条件を満たすことが必要 • Domination and Profit and Loss Transfer Agreement（支配及び損益移転契約）を3年間は締結しないことを確約 • 本公開買付けの完了後、SLM社の非上場化プロセスを予定
キャピタル アロケーション	<ul style="list-style-type: none"> • 本買収は中期経営計画におけるキャピタルアロケーションの枠組み内で対応 • 原則、手元現預金にて対応
財務インパクト	<ul style="list-style-type: none"> • 現中期経営計画期間である2025年度までの損益貢献は限定的である一方で、2030年に向けて利益貢献の加速を見込む • 詳細な財務インパクトについては本買収完了後に公表を予定

注記 (1). €1あたり135.00円で換算

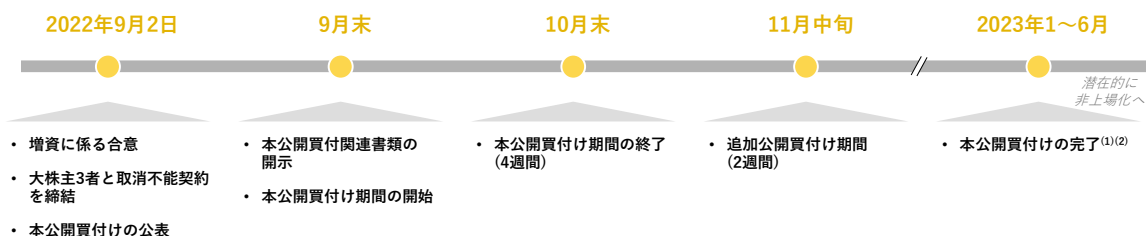
13

- このスライドには、すでにご説明した内容を含む公開買付け提案の詳細が記載してあります。
- 下から2段目、本件は中計で掲げた資本配分、キャピタルアロケーションに沿った案件です。
- すなわち、中計では配分可能原資7～8,000億円の30%程度、2,000億円から3,000億円をM&Aなどの戦略投資に回す、と公表していますが、本件はその第一弾にあたる案件です。なお、買収資金は原則として、手元現預金で賄う計画です。
- また、本件に伴う財務インパクトは、本中計期間中は限定的ですが、2030年に向け、ニコングループ全体の連結収益に貢献してくれるものと期待しています。

5. 取引概要(2/2)



本件取引想定スケジュール



注記 (1). 公開買付け期間の終了から12か月後をLong-stop dateとする
注記 (2). 関係当局からの許認可の取得及びその他手続上の条件を満たすことを前提とする

14

- 最後にスケジュールです。
- 本日、ニコン取締役会での買収提案を実施することを機関決定いたしました。同時に、本日、SLM社側でも 本公開買付けに賛同する旨の機関決定がなされています。
- 9月末をめどに公開買付けが開始される予定です。
- その後、ドイツのルールに基づいてプロセスが進捗していき、来年の1月から6月の間のいずれかのタイミングで、関係当局からの許認可を前提に、公開買付けが成立する、というスケジュールを想定しています。
- 私どもからのご説明は以上です。

參考資料

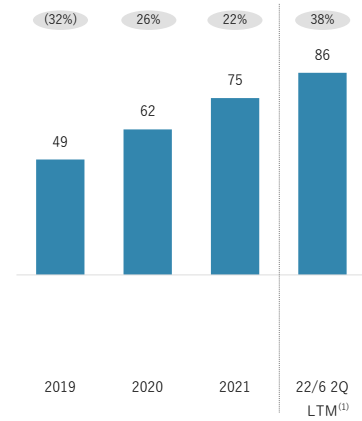
SLM社 – 主要財務数値



売上高

百万€

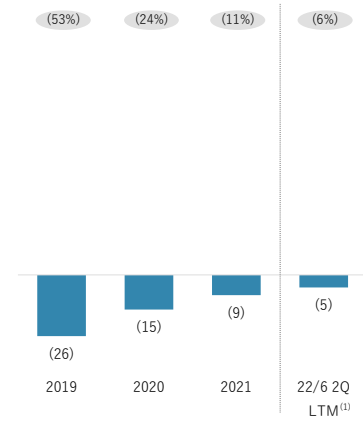
対前年成長率



EBITDA

百万€

EBITDA マージン



貸借対照表

百万€

	2019/12	2020/12	2021/12	2022/6
現金及び現金同等物	25	18	24	37
総資産	136	126	149	175
有利子負債	67	78	81	107
自己資本	44	15	32	27

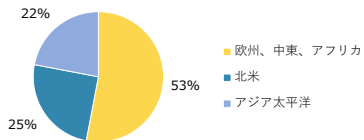
注記 (1). Last Twelve Months (最近12ヵ月) の財務数値 (未監査)

SLM社 – 顧客基盤及び製品ラインナップ



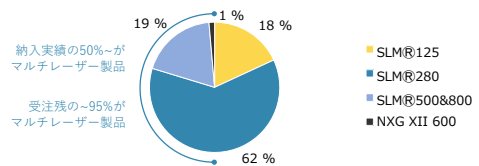
地域別納入実績

2022年2月時点



製品別納入実績

2022年2月時点



製品ラインナップ

	2009	2011	2013	2017	2020
	SLM®125	SLM®280	SLM®500	SLM®800	NXG XII 600
					
対象市場	多品種変動生産				大量・高生産
造形範囲 (mm ³)	125x125x125	280x280x365	500x280x365	500x280x850	600x600x600
搭載レーザー数	1	2	2 & 4	4	12
造形スピード (cm ³ /h)	最大25	最大88	最大171	最大171	1,000以上

出所: SLM社投資家向け資料

金属3Dプリンター方式



金属3D-Printing Types

Powder Bed Fusion
粉末床溶融結合法

PBF

Binder Jet

結合剤噴射法

DED

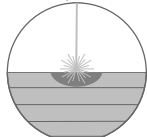
Directed Energy Deposition
指向性エネルギー堆積法

Metal FDM

Fused Deposition Modeling
金属熱溶解積層法

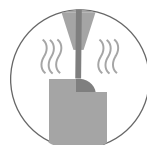
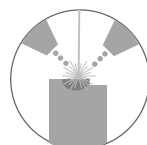
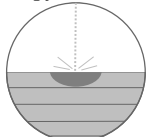
L-PBF

Laser-PBF
レーザーPBF



EB-PBF

Electron Beam-PBF
電子ビームPBF



平らに敷き詰められた
金属粉末材料を
熱エネルギー(レーザー)
で溶融結合させる

L-PBFと同様で、
レーザーの代わりに
電子ビームを使用

平らに敷き詰められた
金属粉末材料に、液体の
結合剤を噴射して結合。
焼結などの後処理が必要

ノズルから金属粉末原料
を吹き付け、材料を
熱エネルギー(レーザー)
で溶融結合・堆積

ノズルから押し出された
原料(金属粉末と
可塑性樹脂の化合物)を
ヒーターで溶解結合。
焼結などの後処理が必要



免責事項



- 本発表は情報提供のみを目的としたものであり、SLM社株式の売却を勧誘するものではありません。本発表はSLM社株式の購入の申込みを構成するものではなく、当社が何らかの表明を行うこと、又は法的拘束力のある合意を行うことを目的としたものではありません。本公開買付け（転換社債の公開買付けを含みます。以下同じ）に関する公示文書には重要な情報が含まれており、投資家及びSLM社株式の保有者は、当該文書を確認することを強く推奨いたします。さらに、本公開買付けの対象となるSLM社の有価証券の保有者は、公開買付公示文書の内容及び本公開買付けに関して十分な情報に基づく意思決定を行うため、独立した助言を得ていただくことを強く推奨いたします。
- ドイツ及び米国以外の国・地域における本発表の公表、送付、配布又は流布については、それらを規制するドイツ及び米国以外の国・地域の法令による規制を受けることがあります。ドイツ若しくは米国の居住者ではない方、又はその他の理由により他の法域の法令の適用を受ける方は、これらの法域の法令についてご自身で確認し、これを遵守していただきますようお願いいたします。
- 本発表は、そのリリース、公表又は配布が関連法令に違反することとなるいかなる法域においても、また、いかなる法域に対しても、その全部又は一部を問わず、リリース、公表又は配布を行うものではありません。
- 米国の居住者は、以下の事項をご確認ください。
 - ▶ 本公開買付けは、米国証券取引所法第14条(e)及び同条に基づくレギュレーション14Eに基づき、これに従って行われますが、本公開買付けは非米国企業の証券に対するものであり、米国以外の法域の開示・手続規則、基準及び慣行に従うことになります。法域によっては、本発表の公表又は配布が違法とされている場合や、一定の範囲の方に限って認められている場合があります。
- また、本資料に記載されている当社グループおよびSLM社以外の企業等にかかわる記述は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。なお、別段記載のない限り、本資料における当社に係る財務情報はIFRSベースの数値（本邦の管理会計基準を含む）を、本資料におけるSLM社に係る財務情報はドイツで採用されている会計基準ベースの数値を使用しています。

将来見通しに関する注記事項



- 本発表は、当社、買付者及びSLM社に関する「将来に関する記述（forward-looking statements）」またはそれに該当するものを含んでおります。本発表に記載される過去の事実以外の記述は将来に関する記述であることがあります。「～を目標としている（targets）」、「～を計画している（plans）」、「～と考えている（believes）」、「～と予想される（expects）」、「～を目的としている（aims）」、「～する意向である（intends）」、「～するつもりである（will）」、「～する可能性がある（may）」、「～が期待される（anticipates）」、「～と見込まれる（estimates）」、「～と予測する（projects）」、及びこれらに類似する意味の単語や言葉、又はそれらの否定文は、将来に関する記述です。将来に関する記述には、(i) 今後の資本支出、費用、収入、利益、シナジー効果、経済動向、負債、財務状況、配当政策、損失及び将来予測、(ii) 事業及び経営戦略、及び、本公開買付けによって当社、買付者又はSLM社にもたらされる潜在的なシナジー効果及び事業の拡大と成長、並びに (iii) 当社又はSLM社の事業に対する政府規制の影響に関する記述を含みます。
- 将来に関する記述は、期待されている結果に重大な影響を与えうるリスクや不確実性を伴い、一定の重要な前提に基づいています。多くの要因により、実際の結果は、将来に関する記述において想定又は示唆されていたものと著しく異なることがあります。かかる不確実性やリスクに鑑み、本発表を閲覧される方は、その記述が行われた日付け時点における予想でしかない将来に関する記述に過度に依存しないようご注意ください。当社、買付者及びSLM社は、適用法令により義務付けられる場合を除き、本発表に含まれる将来に関する記述又はその他の記述を更新する義務を負うものではありません。
- 本発表に記載又は言及されている記述は、一切、収益予想として行われているものではありません。

